

29年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
入荷動向	スギ	△ 25.0	△ 20.0	10.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	12.5
	カラマツ	△ 8.3	△ 10.0	△ 10.0
	トドマツ	16.7	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 8.3	0.0	10.0
	ヒノキ	0.0	12.5	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	16.7	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 10.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 8.3	△ 20.0	△ 10.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキの入荷動向は12月、1月の減少から2月は増加に。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは12月の増加から1月、2月は横ばいに。
・スギの消費動向は12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。ヒノキは12月の横ばいから1月、2月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは12月の増加から1月、2月は横ばいに。
・スギ、カラマツの在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキ、トドマツは3カ月連続横ばい推移。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
スギ	8.3	20.0	10.0
ヒノキ	12.5	25.0	12.5
カラマツ	16.7	20.0	10.0
米マツ	50.0	50.0	33.3
北洋カラマツ	33.3	33.3	33.3
その他	50.0	0.0	0.0

・原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツとも強含み。
・外材は米マツ、北洋カラマツとも強保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)
・スギ、カラマツとも集まりにくくなって来ている。生産に合わせた消費。ほぼ横ばいながら日によって在庫が減るときがある。
・おおむね消費分を入荷する。フロア台板向けのトドマツの消費が増加。よってトドマツの在庫が減少すると予想。
・全ての樹種において入荷困難。在庫は減少。
・冬場対策としてカラマツの入荷を少量増加。カラマツを主体に消費。冬場対策用としてカラマツを少量増加。
・スギ材の入荷減少が目立つ。更に冬期に掛けて例年の如く出材が減少する。出荷・生産計画に添い消費。在庫はスギ材が減少。
・当月、翌月とも年末年始で入荷、消費とも減少。原木価格が上がっているため、在庫は増加しにくい。
(原木価格)
・現在は変わらないが、丸太が集まりにくくこの状態が続けば上がるかもしれない。
・国産材は横ばいないし強含みと予想する。外材は総じて強基調。
・スギにおいては入手困難になり、取り合いで価格アップ。
・カラマツ、北洋カラマツともに高値にて推移。
・1月より全樹種上昇傾向。樹種によっては前倒し上昇している。
・全樹種とも購入価格変化なし。

29年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
生産動向	構造用(9mm)	△ 25.0	△ 20.0	10.0
	〃 (12mm)	△ 7.1	△ 16.7	8.3
	〃 (15mm)	△ 21.4	△ 16.7	8.3
	〃 (24mm)	0.0	△ 16.7	8.3
	〃 (28mm)	0.0	△ 16.7	8.3
出荷動向	構造用(9mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 8.3	8.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 8.3	8.3
	〃 (24mm)	7.1	△ 8.3	8.3
	〃 (28mm)	7.1	△ 8.3	8.3
在庫動向	構造用(9mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 12.5
	〃 (12mm)	△ 14.3	△ 16.7	△ 8.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 16.7	△ 8.3
	〃 (24mm)	△ 21.4	△ 16.7	△ 8.3
	〃 (28mm)	△ 21.4	△ 16.7	△ 8.3

・生産動向は9、12、15mmが12月、1月の減少から2月は増加に。24、28mmは12月の横ばいから1月は減少、2月は増加に。

・出荷動向は9mmは12月の減少から1月、2月は横ばいに。12mmは12月の横ばいから1月は減少、2月は増加に。15mmは12月、1月の減少から2月は増加に。24、28mmは12月の増加から1月は減少、2月は再び増加に。

・在庫動向は全ての品目で3カ月連続減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
構造用(9mm)	0.0	10.0	0.0
〃 (12mm)	0.0	8.3	0.0
〃 (15mm)	0.0	8.3	0.0
〃 (24mm)	0.0	8.3	0.0
〃 (28mm)	0.0	8.3	0.0

・構造用合板の出荷価格動向は全品目とも保合。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・9、15mmを減らして、受注が多い12、24、28mmの生産を増やす。年末近くになるとトラック手配ができず積み残しが出るかも。生産分を出荷。全品目在庫少ない。
- ・フル生産を継続中で出荷は堅調。生産分を出荷と予想し、在庫はほとんど変わらない。
- ・12月、1月は稼働日少なく生産減。出荷は引き合い多く品不足に加え、車の手配難で遅延あり。全てのアイテムで在庫増えず。
- ・少量につき変化なし。
- ・12、15mmは生産計画で推移。24、28mmは増加。厚物出荷増加。在庫はほぼ横ばい。
- ・年末の休業により稼働日減、生産量は減となる。12mm、ネダノンの引き合いは依然強い状態が続くが生産減により出荷もその分減る。生産量に合わせた出荷となるので、在庫量は横ばいからやや減少する。

・全樹種とも計画通りフル生産・出荷している チップ在庫は持っていない

(構造用合板の価格)

- ・先月と同じく横ばい。
- ・価格は横ばいを予想するが、原材料のコストアップにより強含み予想。
- ・原木高、運賃高等コストアップで上昇局面へ。
- ・価格変化なし。
- ・原料が上昇傾向にあるも製品価格はほぼ横ばい。
- ・円安により原木価格、接着剤、石油製品等のコストアップ要因が出ており、価格の上昇傾向にあるが様子見状態。